

AUTOMAT L



TOKYO KOGAKU KIKAI K.K.



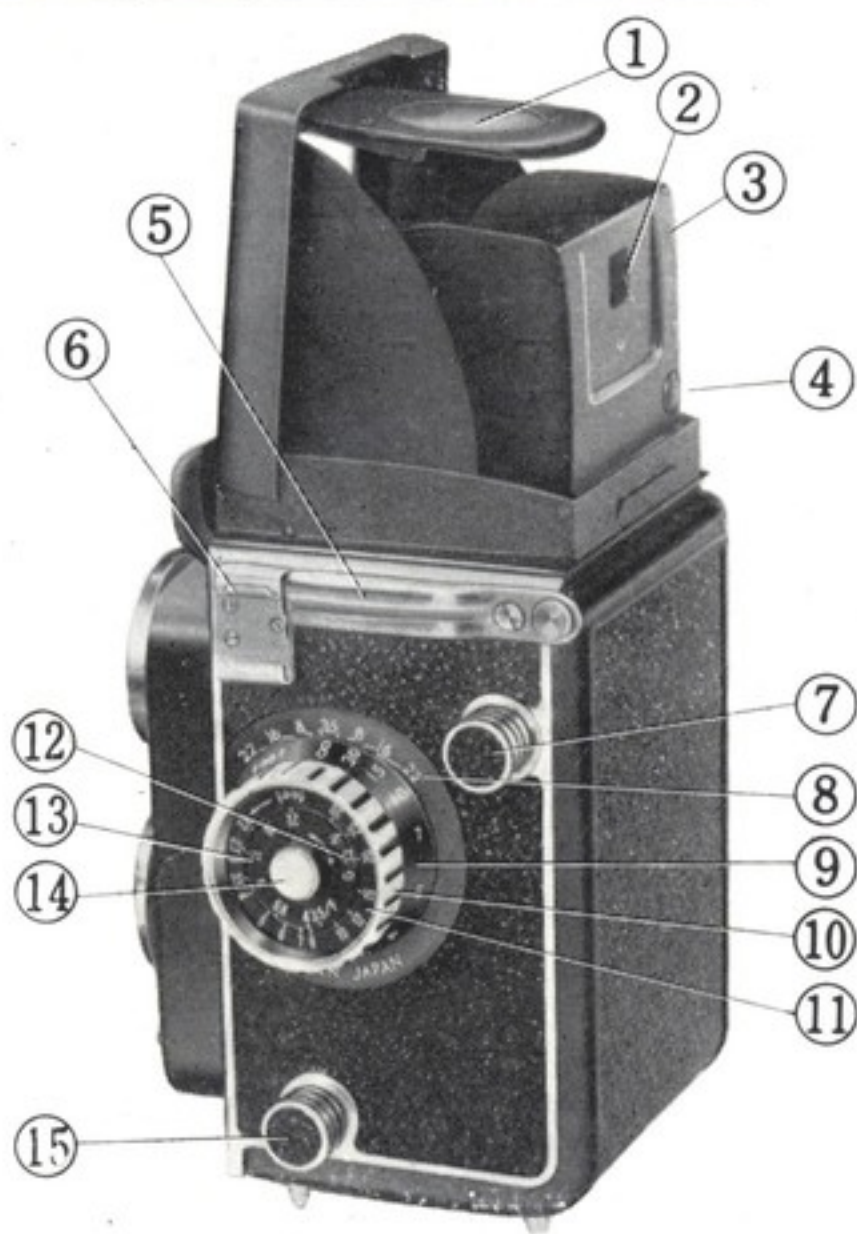
目 次

1. 特 長	1
2. 部 品 の 名 称	2
3. 撮 影 の 順 序	5
4. 二重露出防止と多重撮影	15
5. 被写体深度とその目盛の見方	16
6. フラッシュ撮影(ガイドナンバー計算盤の使い方)	18
7. トーコーブライト	20
8. 保 存 と 手 入	21
9. 簡 易 露 出 表	22

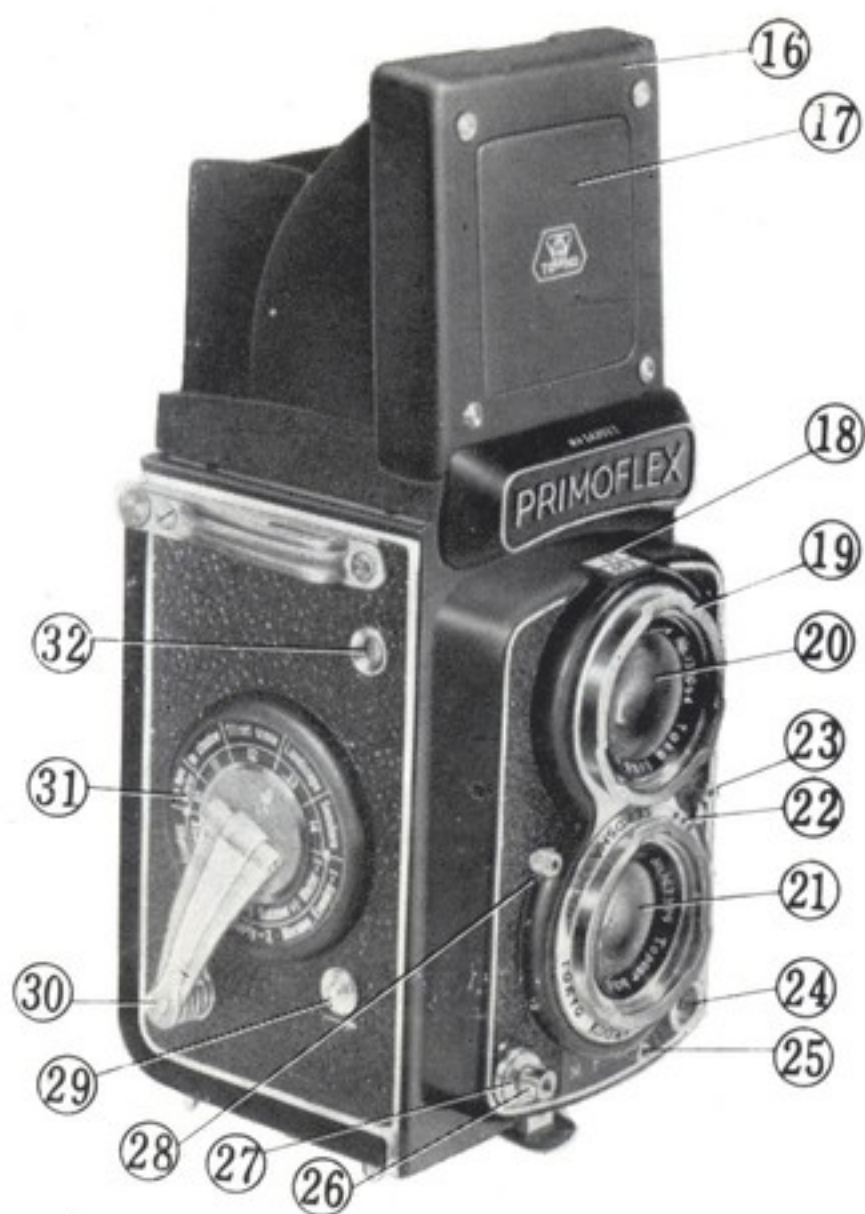
① 特 長

- 最高解像力を誇るトップコール F3.5/75mm レンズ4枚構成
シムラー、トーコー以来親しまれて来た当社のテッサー型レンズです。切れ込みの優秀さは大きく引伸ばすと、真価を発揮します。
- 常時適正露光可能のライトバリュー式セイコーシャ MXL シャッター B, $1 \sim 1/500$ 秒
ライトバリューシャッターが国産2眼レフに始めて取付けられました。絞りとシャッタースピードが連動しいつも適正な露光とあいまつて、露出に頭を悩ます必要がなくなりました。
- クランク1回転式（逆転なし）オートマツト
いつも正確に1回転で送れるクランク式フィルム送りは、2眼レフのスナップ性に乏しい欠点を、除きスムーズに操作できます。
- フィルム面の安定する上から下への巻取り
鮮鋭なピントを得るには、フィルム面の安定が大切です。上から下へ巻取る機構は最も合理的なものです。
- 2 feet (60 cm) まで近接撮影可能の特殊繰出機構
たいていの2眼レフは、近接撮影はせいぜい1 mまでですが、プリモの特殊繰出機構はプロクサーなしで60cmまで接写を可能にしました。
- パララックス修正マーク入りのトーコーブライト付ピントグラス
トーコーブライトを取つたこのカメラは普通の2眼レフのピントグラスに比べて平均2.5倍、四隅で10倍の明るさです。更に上方の隅に刻線があり、至近距離のパララックスを修正する事が出来ます。

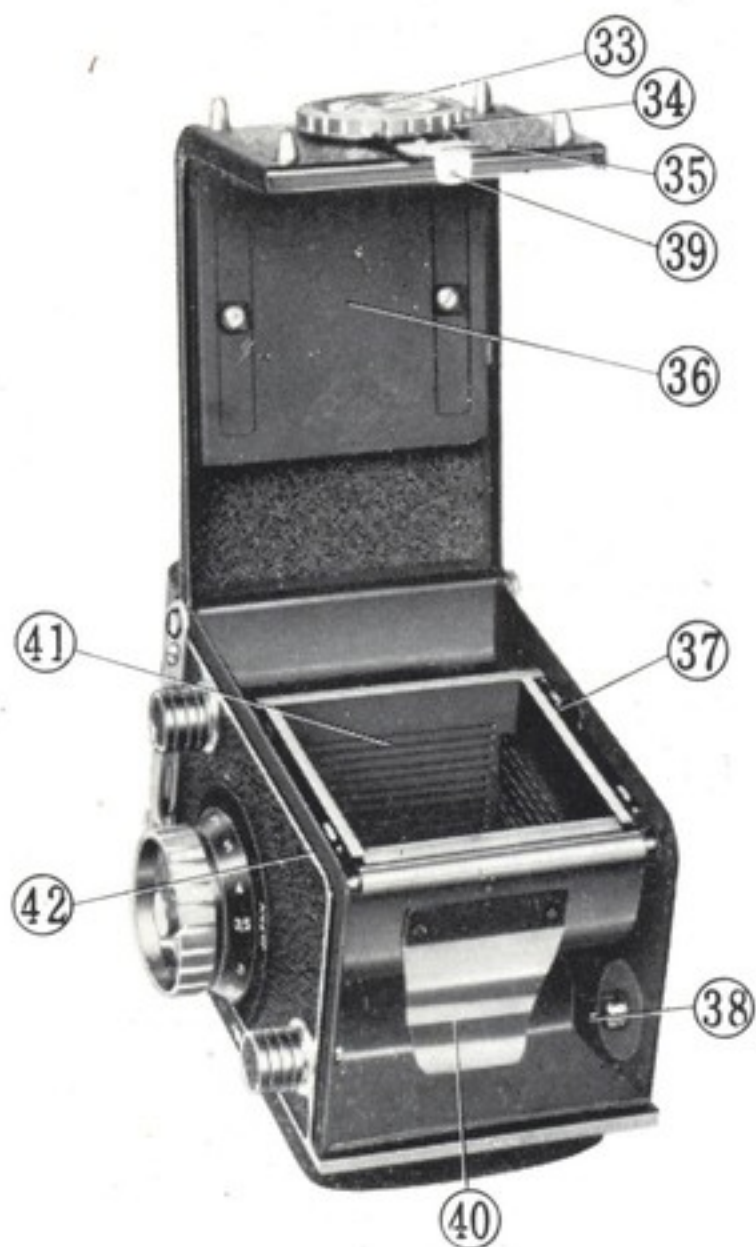
② 部 品 の 名 称



- | | | | |
|---|-------------------|---|------------------|
| ① | ピントルーパー | ⑩ | 繰出しノブ |
| ② | 透視ファインダー覗窓 | ⑪ | フラッシュガイドナンバー距離目盛 |
| ③ | ピントフード | ⑫ | フラッシュガイドナンバー |
| ④ | 透視ファインダーフラップ止めボタン | ⑬ | フラッシュガイドナンバー絞り目盛 |
| ⑤ | 紐掛け金具 | ⑭ | フラッシュガイドナンバー調節ノブ |
| ⑥ | アクセサリシュー | ⑮ | 巻取りスプール受けノブ |
| ⑦ | フィルムスプール受けノブ | | |
| ⑧ | 被写体深度目盛環 | | |
| ⑨ | 距離目盛 | | |



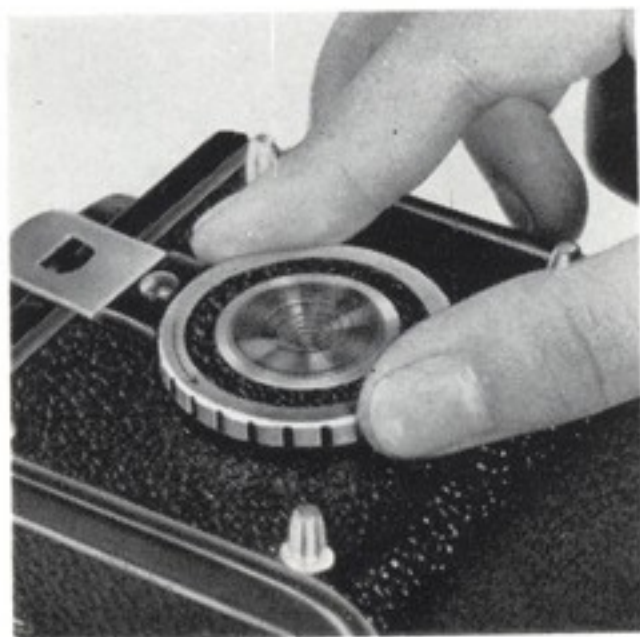
- | | | | |
|----|------------------------------|----|--------------------------|
| ①⑥ | フードカバー | ②⑤ | M-F-X シンクロ切換レバー (緑点入) |
| ①⑦ | 透視ファインダーフラップ | ②⑥ | シャッターボタン (ケーブルリリースソケット付) |
| ①⑧ | 絞りシャッタースピード表示窓 | ②⑦ | シャッターボタン安全装置 |
| ①⑨ | バヨネット | ②⑧ | シャッタースピード調節レバー (赤点入) |
| ②⑦ | ビューレンズ | ②⑨ | 多重撮影ボタン |
| ②⑧ | 撮影レンズ | ③① | セルフコッキング巻取りクランク |
| ②⑨ | ライトバリュースケール目盛 | ③② | 簡易露出表示窓 |
| ③① | ライトバリュースケール設定及び絞り調節レバー (黒点入) | | |
| ③② | シンクロソケット | | |



- | | | | |
|----|------------------|----|--------------|
| ③③ | 裏蓋三脚取付ソケット | ③⑨ | 裏蓋締め金具 |
| ③④ | 裏蓋開閉環 | ④① | 内面反射防止パッフル |
| ③⑤ | 裏蓋 | ④② | スタートマーク(赤点入) |
| ③⑥ | 圧板 | | |
| ③⑦ | 撮影回数自動復元レバー | | |
| ③⑧ | フィルム巻取りスプール
鍵 | | |

③ 撮 影 の 順 序

(A) フィルムの装填



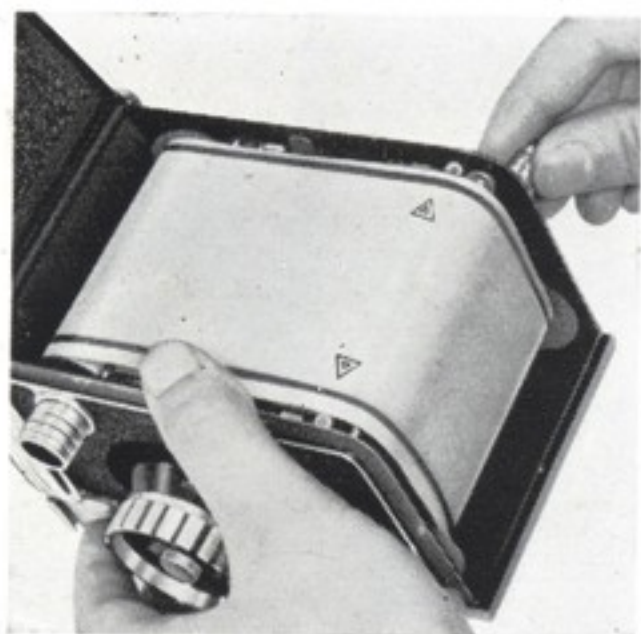
- (1). 裏蓋開閉環を矢印の方向へ静かに回します。裏蓋締め金具が上へ持ち上げられて裏蓋が開きます。

- (2). 空スプール（巻取りスプール）を下室に入れます。右側を巻取りスプール鍵に合わせ、左側の巻取スプール受けノブを引出すと、簡単に入ります。



- (3). フィルムスプールを上室に(2)と同様にして入れます。その際リーダーペーパーの先を巻取りスプールの方向に向けて入れねばなりません。

- (4). リーダーペーパーの端を引出して空スプールの長い方の溝に差込みます。この時、巻取りクランクを少し回しますと溝の位置を適当に変えられます。

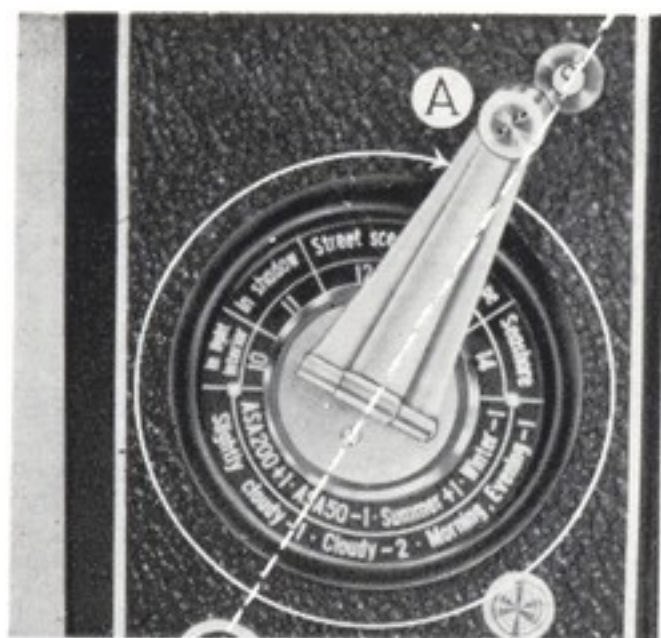


- (5). 巻取りクランクを前方に回してリーダーペーパーを巻取つて行くと、△印マークが現れます。このマークを下のフィルムローラーの近くにあるスタートマーク（赤点）に合せます。

- (6). 裏蓋開閉環を矢印と逆方向に回し裏蓋を閉じます。

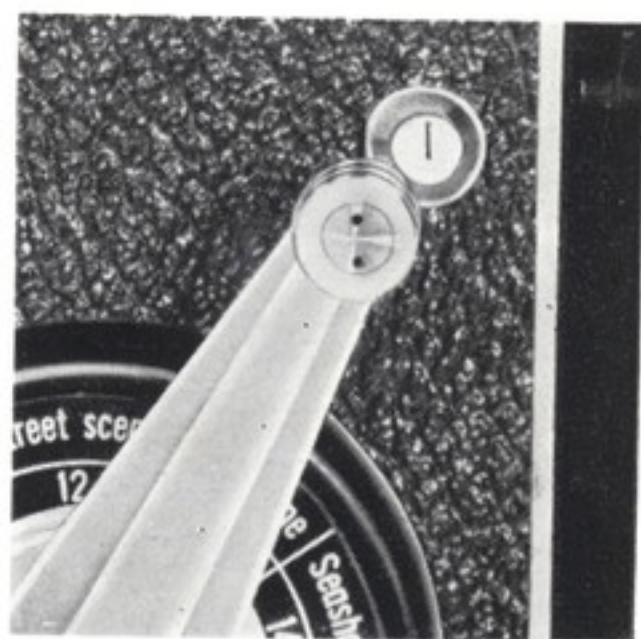


(B) フィルムの巻取



(1). 巻取りクランクを回すと“**A**”位置で止ります。この間はフィルムは巻取られず、撮影回数表示窓の0はそのままシャッターのみセットされます。シャッターボタンを押してシャッターを切つて下さい。クランクは回る様になります。

(2). 巻取りクランクを3回転しますと再び“**A**”位置で止まります。この時表示窓は0から1に変わります。これでフィルムは1枚送られ、自動的にシャッターがチャージされ第1回の撮影準備が完了します。これ以後は巻取りクランクを1回転



する毎に撮影回数表示窓の2~12まで自動的にフィルムが送られ、シャッターがチャージされます。

(注意)

(イ) フィルムの△印をスタートマークに合わせる時、巻取りクランクが“**A**”位置に来ていた場合は(1)の予備巻上げとシャッター解除の必要はありません。直ちに巻取りクランクを3回転するだけで第1回の撮影準備が完了します。

(ロ) フィルム巻上げは巻取りクランクが止まる所まで巻上げて下さい。

(f) 巻取りクランクの回転方向は前方に回転するだけで逆転する必要はありません。

(C) ライトバリュウの設定 (露出：絞りとシャッターの連動)

(1). ライトバリュウについて

写真を撮影するには先ず被写体の明るさとフィルムの感光度が問題になります。

次にそれ等に応じた適正な露光をしなければなりません。この露光量を加減するのが絞りとシャッタースピードであり、この2つを適当に組合わせる事により適正な露光量が得られるわけです。

ところが絞りは又被写体深度に関係があり、シャッタースピードは被写体の動きに関係がありますから適正な露光量の範囲でこの両者を満足させて始めて適正な露出と云えるわけです。

従来は露光量も被写体深度や被写体の動きの関係などもすべて絞りとシャッタースピードの2つの数値をたよりにして解決していましたが、これを単純化するため露光量決定の要素である被写体の明るさとフィルムの感光度とを組合わせて1つの数値で表わしたものが、写真の場合に於けるライトバリュウです。ライトバリュウは日本語で光値数と呼んでおります。つまりライトバリュウは露光量を決定するための数値と云えます。そこでこのライトバリュウが決つたらその数字をカメラの方の数字に合せば被写体深度や被写体の動きには無関係に一応適正な露光量が得られる1つの組合せ(絞りとシャッタースピードとの)が出来る様になっています。だからそのままシャッターを切つても露光量に関する限り正しいネガが出来る訳ですが、前記の様に被写体の条件によつてシャッタースピードや絞りを選択する必要がある場合はこの組合せを変えねばなりません。その場合シャッタースピードを変えれば絞りもこれに連動して変り適正な露光量を失わない範囲で幾つかの組合せが自動的に出来る機構になっています。この機構

をライトバリュースystemと呼びます。

これを更に詳しく具体的に説明しますと今被写体の明るさをすべてこのライトバリューできめますと一例えば感光度が ASA 100 のフィルムを使う時街路は 12, 海辺なら 14 と一直ちに露光量(絞りとシャッタースピードの組合せ)が決定できるわけです。しかも絞りとシャッタースピードは連動していますからライトバリュー 12 の場合 f 8, 1/50 秒であつたのを, 被写体深度を深めるために f 11 に絞りますとシャッターは自動的に 1/25 秒になり, 反対に被写体が動くものなのでシャッターを 1/100 秒に設定しますと絞りは自動的に f 5.6 になります。即ちライトバリュー 12 が変わらなければいつでも同一露光量を保ち且つ適当な露出が出来るわけです。このライトバリュースystemを採用した最初の国産シャッターがセイコーシャの MXL シャッターです。プリモオートマツト L はこのシャッターをつけた最初の国産二眼レフです。

SEIKOSHA MXL のライトバリューの各スピードに於ける F 値

L. V. N T	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
1	4	5.6	8	11	16	22	32											
1/2		4	5.6	8	11	16	22	32										
1/5			3.6	5.1	7.2	10.1	14.3	20.2	28.5									
1/10				3.6	5.1	7.2	10.1	14.3	20.2	28.5								
1/25						4.4	6.4	9.1	12.8	18.1	25.6							
1/50							4.4	6.4	9.1	12.8	18.1	25.6						
1/100								4.4	6.4	9.1	12.8	18.1	25.6					
1/250										4	5.6	8	11	16	22	32		
1/500												4	5.6	8	11	16	22	32

(2). 操 作



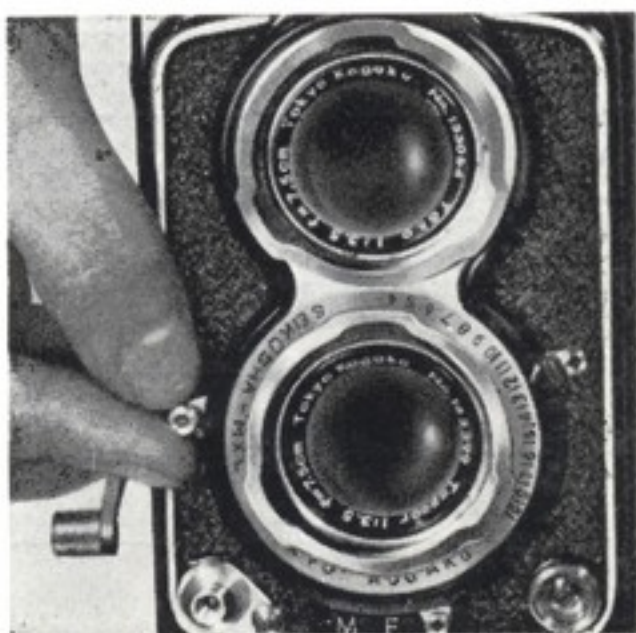
被写体の明るさとフィルム感光度によりライトバリュウを電気露出計又は簡易露出表③によつて求めます。ライトバリュウ設定レバー②を動かして求めたライトバリュウに合せます。これで露光量が決まりました。上部の表示窓①に絞り（黒色数字）とシャッタースピード（赤色数字）が表示

われています。若し被写体によつてシャッタースピード、絞りを変える場合は調節レバー④（赤点入）を動かして下さい。絞り、シャッタースピードもこれに応じて変わります。この時の組合せはいつでも同じライトバリュウですから露光量に変化はありません。



(注意)

- (イ) 1/250 秒から 1/500 秒に変える場合は、絞りと連動しますが、セイコーシャ MXL シャッターの機構上 1 段露出オーバーになりますのでライトバリュウを 1 段上げて下さい。例えば 14 の時は 15 にして下さい。



これは絞りを1段閉じる事例例えば f 5.6 を f 8 にする事になります。但し 19 のときは1段上げると目盛のない所に来ます。逆に 1/500 秒から 1/250 秒に変える場合はライトバリュウを1段下げて下さい。

(D) 絞りはシャッタースピードと連動しますのでシャッタースピードが倍々でない関係上 (1/10 秒~1/25 秒, 1/100 秒~1/250 秒) 絞りの数字が窓の中央に来ませんが原理的に何ら支障はありません。

(E) ライトバリュウは簡易露出表 (22 頁) を参照して下さい。

又ライトバリュウを考えないで従来の使用法も出来ます。それにはシャッタースピード調節レバー ㉔ を動かして、先ず求めるシャッタースピードを設定し、次にライトバリュウ設定レバー ㉕ を動かして、求める絞りを設定して下さい。しかし露出の決定が早くなる事と、同じ露光量に対してシャッタースピードと絞りの組合せを考えずに選べる点でライトバリュウ方式が優れている事は云う迄もありません。

(注意)

シャッターがチャージされた後の 1/500 秒の変更はシャッター機構上望ましくありませんからフィルムを巻上げる前に調節して下さい。(止むを得ない場合はレンズキャップをかぶせシャッターを切り必要な速度に調節した後、多重撮影ボタンを矢印の方向に押し巻取クランクを1回転して下さい。フィルムは巻取られる事なくシャッターのみ再びチャージされます。)

(D) ピントフードを立てる

(1). ピントフード

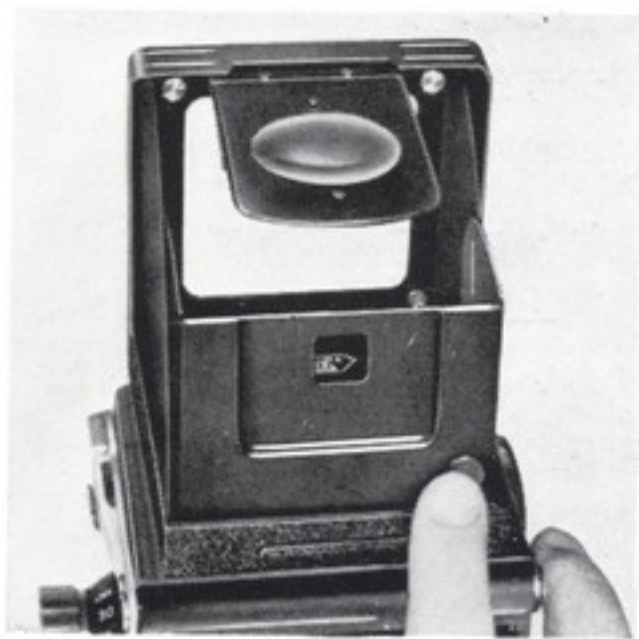
ピントフードカバーの端を持ち上げるとバネの力で自動的に立上ります。反対方向に倒すと閉じ込む事が出来ます。



(2). ピントルーペ

ピントルーペを使用する時は透視ファインダーフラップの上部を指先で内側に押すと立上ります。ルーペを閉じ込むには下方へ押せば元の位置におさまります。

(3). 透視ファインダー



透視ファインダーフラップを奥の方に倒すとフード内部の止金にかかって止まります。覗窓から見える前枠の範囲内の被写体がフィルムに写り直接にスポーツファインダーとして使用出来ます。元へ戻すにはフラップ止めボタン④を押しますと自動的に戻ります。

(E) ピントを合わせる

カメラを被写体に向けてピントグラスをのぞきますと被写体がピントグラスの上に左右逆になつて見えます。被写体がぼけてはつきりしない時は繰出しノブを回して被写体のはつきり見える様に調節して下さい。フィルムにはピントグラスに見られるそのままの被写体が映ることになりますが、近距離の場合は上下レンズの間隔によつて視差(パララックス)を生じ、ピントグラスに映つた

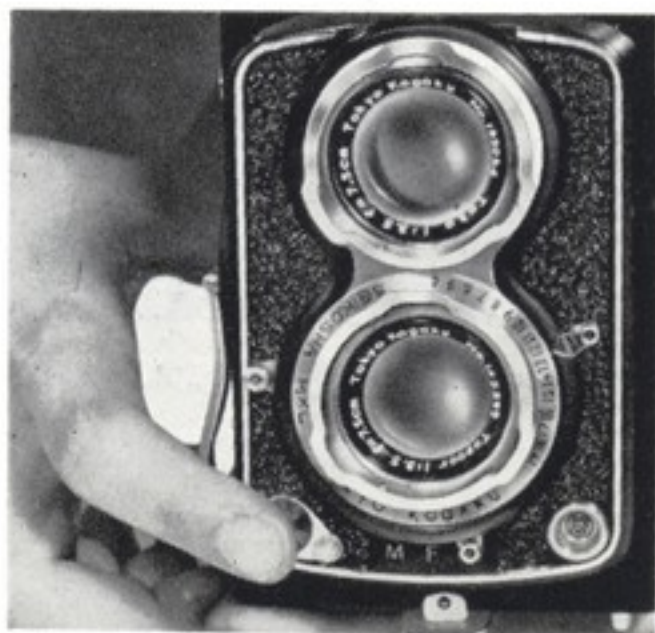


被写体の上部がフィルムに写りません。然しプリモフレックスオートマツトLの特殊焦点合せ機構はピントグラスの上方に横の刻線があり、この線の下に被写体を映して撮影すればプロクサーなしで2 feet から無限遠まで正確に写す事が出来ます。(刻線は2 feetの視差修正量を示してい

ます) ピントルーペを使用するとピントグラスの像を約2.5倍拡大し、より正確にピントを合わせる事が出来ます。

(F) シャッターボタンを押す

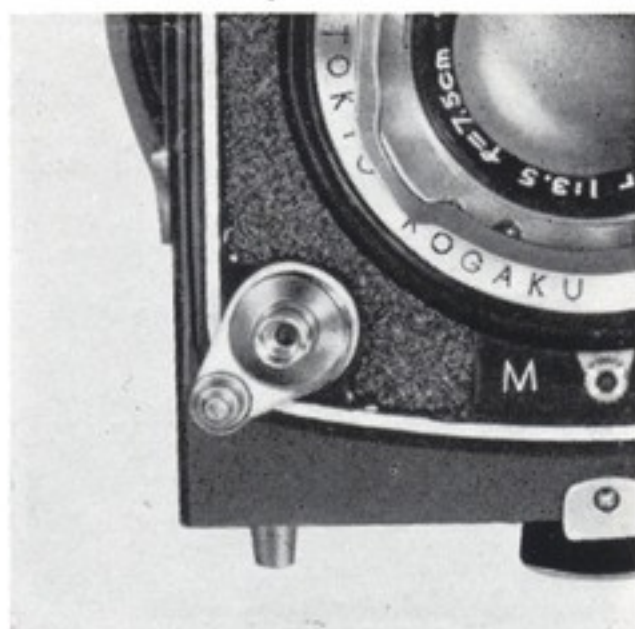
ピントグラスを見ながらシャッターボタンを押します。これで撮影が終つたわけです。継続して撮影しない場合は、ピントフードを閉じ込んで



下さい。シャッターボタンにはケーブルリリース用のねじ孔があります。これはセルフタイマーにも使用致します。

シャッターボタン安全装置

シャッターボタンの下部にあるレバーは安全装置で、シャッターがチャージされた後シャッターを切る必要がなくなつた時は暴発を防ぐ為に矢印の方向に約70度回転して下さい。安全装置がかかりシャッターは切れなくなります。



(G) 次の撮影

第2回の撮影をしようとする時には巻取りクランクを前方へ1回転しますと撮影回数表示窓に2が現れ、自動的にフィルムは巻取られ、シャッターはチャージされます。これ以後は同じ操作を続けて12枚迄撮影します。

(H) 全部写したらフィルムを取出す

12枚撮影し終ると、撮影回数表示機構は自動的に解除され巻取りクランクは何回も自由に巻けるようになります。巻取りクランクを廻し続けると回転が軽くなります。即ち完全に巻取られたわけです。それを確かめてから静かに裏蓋を開き巻取りスプール受けノブを左へ引出しフィルムを取出します。取出したリーダーペーパーの先端を僅かに内側に折りたたみ封紙をはつて之の銀紙に包んで下さい。なおフィルムは日蔭で取出して下さい。又裏蓋を開いた時既に撮影回数表示窓には自動的に0が現れ次のフィルムを入れてよい事を示します。

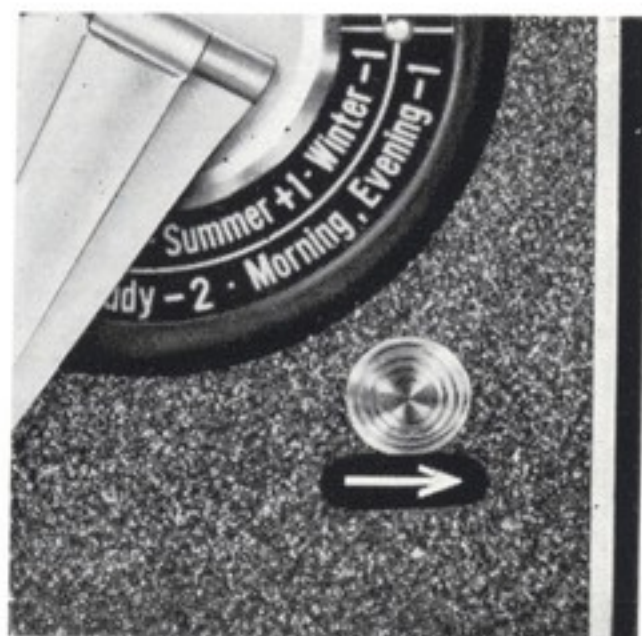
④ 二重露出防止と多重撮影

(1) 二重露出防止

フィルムを巻きシャッターをチャージする。シャッターボタンを押す。この動作を順序通り行えば、二重露出も未露出も起きません。しかしこの順序を間違えそうになつても大丈夫です。シャッターボタンを押さないで再び巻取ろうとしても巻取りクランクは回しません。撮影が終つたままで、巻かないで再びシャッターボタンを押してもシャッターは切れません。完全な二重露出防止の仕組みになつているからです。なおシャッターボタンの安全装置がかかつてシャッターが切れない事もありますから、安全装置を一度確かめて下さい。

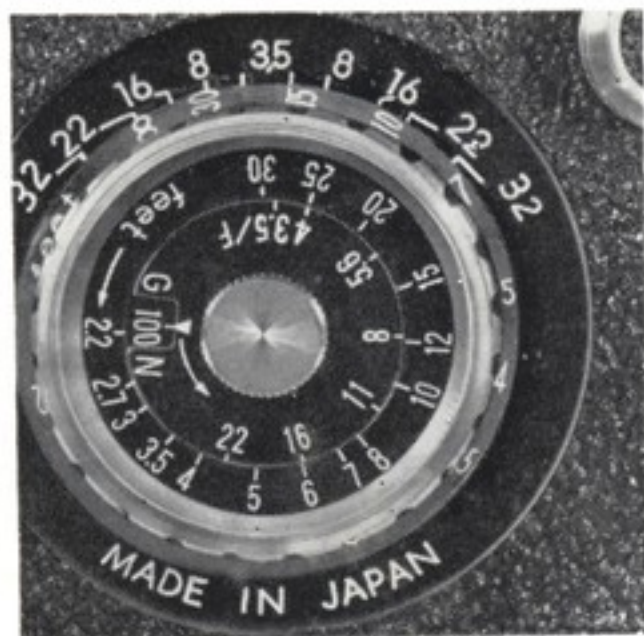
(2) 多重撮影（自動復元装置付）

特殊な撮影，例えばトリック夜間撮影等で二重三重に写し込む場合は多重撮影ボタンを矢印の方向に内部のバネの力にさからつて動かしたままクランクを回して下さい。フィルムは巻取られる事なく，シャッターだけがチャージされます。



クランクを約 30 度回した後はボタンから指を離しても支障ありません。ボタンはバネの力で自動的に元へ戻ります。

⑤ 被写体深度とその目盛の見方



ある距離の被写体にピントを合わせた時、その物の前後それぞれある範囲内の物にも実用上差支えない程度にピントが合っているものですが、その範囲を被写体深度（焦点深度）と言い、それを簡単に見るのに、被写体深度目盛環を使います。被写体深度は、被写体までの距離、絞りの大きさ、焦点距離及び許し得るボ

ケの大きさ、即ち最小錯乱円の直径の4つできまります。

深度目盛環の左右へ対称に 3.5 を中心に 8, 16, と絞り目盛と同じ数が彫刻してあります。但し 4 は間隔が混みすぎるし、3.5 と大差ありませんので省略してあります。この図を見ますと、繰出ノブに接して被写体深度目盛がありますが、3.5 に対して距離目盛に 15 feet の数字があつて 3.5 の左 8 はほぼ 20 feet を指し、右 8 はほぼ 12 feet を指しています。これは 15 feet の距離ではどんな絞りでもハッキリ写り、絞り 8 の時は約 12 feet から 20 feet まで、絞り 16 の時は 9 feet から 38 feet 見当までハッキリ写ることを示したものです。このことは次の頁の深度表で詳しく知ることが出来ます。

被写体深度表 (トプコール 1:3.5 f=7.5 cm)

許容錯乱円の直径 0.05 mm

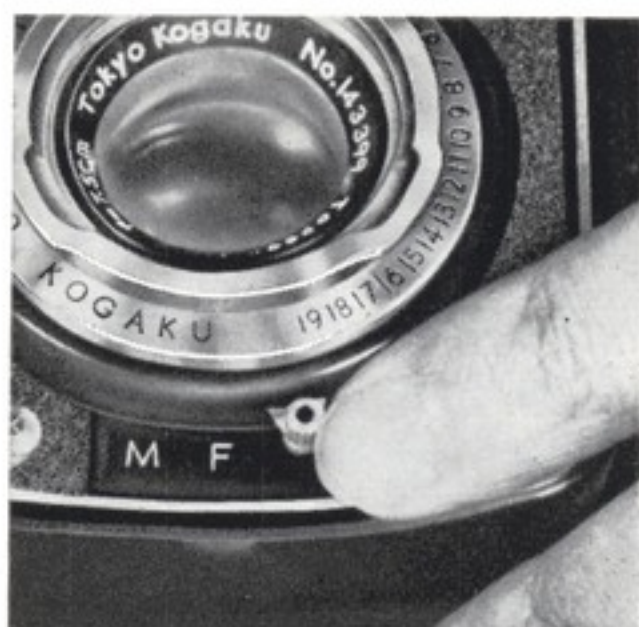
距離はフィルム面から

被写体距離 (フィート)	1:3.5	1:4	1:5.6	1:8	1:11	1:16	1:22	1:32
2.2	2.16~2.24	2.16~2.24	2.14~2.26	2.12~2.25	2.09~2.33	2.04~2.39	1.98~2.47	1.9~2.62
2.4	2.35~2.45	2.35~2.45	2.33~2.48	2.3~2.51	2.26~2.55	2.21~2.63	2.14~2.73	2.04~2.91
2.7	2.64~2.76	2.63~2.77	2.61~2.8	2.57~2.84	2.53~2.9	2.45~3	2.37~3.13	2.25~3.38
3	2.93~3.08	2.92~3.09	2.89~3.12	2.84~3.18	2.78~3.25	2.7~3.38	2.6~3.55	2.45~3.87
3.5	3.4~3.6	3.39~3.62	3.34~3.67	3.28~3.75	3.21~3.85	3.09~4.04	2.96~4.28	2.76~4.77
4	3.87~4.14	3.85~4.16	3.8~4.23	3.71~4.33	3.62~4.47	3.47~4.72	3.3~5.07	3.06~5.77
5	4.8~5.2	4.8~5.3	4.7~5.4	4.6~5.5	4.4~5.8	4.2~6.2	3.9~6.8	3.6~8.1
7	6.6~7.5	6.5~7.5	6.4~7.8	6.1~8.1	5.9~8.6	5.5~9.7	5.1~11.3	4.5~15.7
10	9.2~11	9.1~11.1	8.8~11.6	8.3~12.5	7.8~13.8	7.1~16.7	6.5~22.2	5.6~49.8
15	13.2~17.3	13~17.7	12.4~19	11.5~21.5	10.6~25.7	9.3~37.9	8.2~88.9	6.8~∞
30	23.7~40.9	22.9~43.2	21~52.3	18.6~76.9	16.3~186	13.5~∞	11.2~∞	8.7~∞
∞	112~∞	97.6~∞	69.6~∞	48.8~∞	35.5~∞	24.4~∞	17.7~∞	12.2~∞

⑥ フラッシュ撮影 (ガイドナンバー計算盤の使い方)

(1). フラッシュ撮影

夜は勿論、昼間でも、室内とか、谷間とか、木かげなどの様に光量の少ない場合、撮影に最も簡便な照明方法としてフラッシュガンを用います。従来までの二眼レフのシャッターはX接点又はF接点でF級のバルブでは1/50乃至1/100秒より遅い速度、M



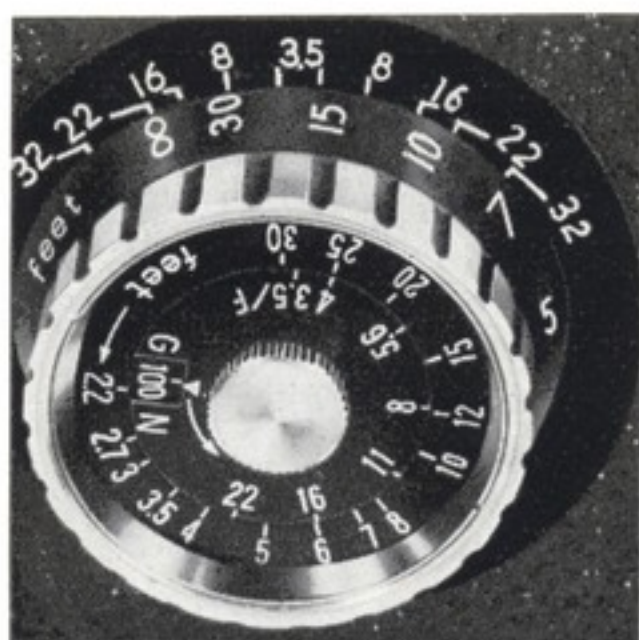
級のバルブでは1/25秒より遅い速度でないと同調しませんでした。M.F.X. 切換接点をもつた SEIKOSHA-MXL シャッターを装着致しましたので、この不便は完全に解消され、M級のバルブでは1/500秒まで完全同調致します。絞りはバルブが指定する露出表によつて、被写体までの距離との関連で決めます。なおフラッシュを使う時以外は、M.F.X. レバーをXへ倒して置いて下さい。

(参 考)

接 点	閃光球の種類	同 調 秒 時
M 接 点	M 級	全 秒 時
F 接 点	F 級	B. 1~1/100
	M 級	B. 1~1/25
X 接 点	ストロボ	全 秒 時
	F 級	B. 1~1/50
	M 級	B. 1~1/25

(2). ガイドナンバー計算盤の使い方

フラッシュランプ（閃光電球）には製作所の指定したガイドナンバーが附表になつています。ガイドナンバーはシャッター速度とフィルム感光度の別によつて示された数値です。普通フラッシュ撮影を行う時にはこの数値を計算して絞りと被写体電球間の距離を求め



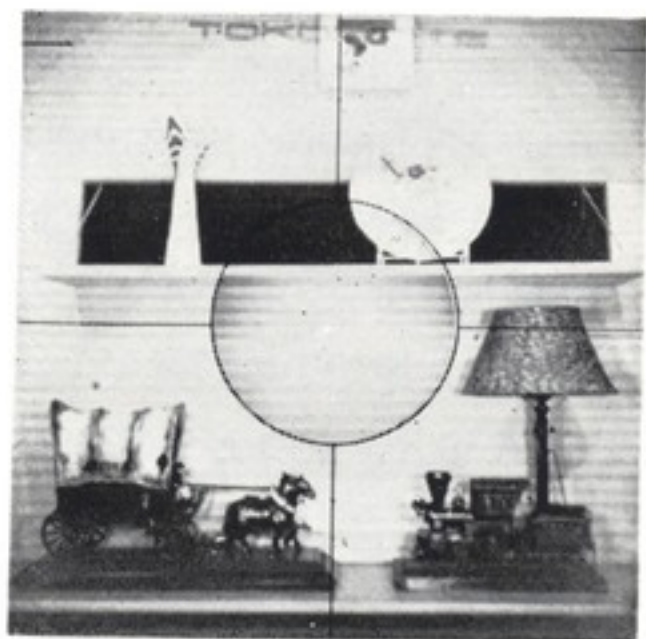
ます。この計算盤は計算の手数をはぶき、ガイドナンバー合致用つまみを回してフラッシュランプの示すガイドナンバーをGとNにはさまれた切抜きの中の数値に合わせるだけで、絞りと距離を知ることが出来ます。今指示されたガイドナンバーが100であつたとしますと上図のようにガイドナンバー合致用つまみを矢印の方向に回し、GとNの間に100を出します。この時外周の目盛（被写体と電球との距離（feet））と円内の目盛（絞り）との関係を見ますと、次のような読みとりが出来ます。

G. N. 100	絞り	22	16	11	8	5.6	4	3.5
	距離 (feet)	4.5	6.2	9	12	18	25	28

距離と絞りについては、この中のどの組合わせを採用しても良いわけですが。絞り8で撮る場合はフラッシュランプを被写体から12 feet 離して閃光させれば良いことになります。

⑦ トーコーブライト

普通の二眼レフのピントグラスをのぞきますと、中央部は明るいのですが、周辺に近づくとつれて急に明るさが減ります。特に室内撮影の時には、写る範囲や構図を決めるのに不便を感じ、二眼レフの欠点として悩みの種となつておりました。この悩みを全く解消し、周辺まで明るく撮影を容易にするのがトーコーブライトです。これはまさにピントグラスの一大革命と言うことが出来ましょう。トーコーブライトを付けますと、普通のピントグラスに比べて平均2倍半、四隅では10倍の明るさになります。ピントグラスの中央



の丸い部分は、ピントを合わせやすくしたものです。トーコーブライトは、プラスチックによる板状のフレネルレンズを利用したものです。

尙近接撮影に適する様にパララックス（視差）を修正するマークが入つて居りますので、被写体がケラレル心配なく安心して撮影出来ます。

⑧ 保 存 と 手 入

(1). カメラの保存

カメラを保存するのに高温と湿気は禁物です。たんすなど密閉した中に長く置くのもよろしくありません。常に乾いた外気に触れさせることが大切です。梅雨時などには皮ケースを取はずし、茶箱とかその他の箱の中に乾燥剤（シリカゲル、アドソール）とともに入れておくのがよろしいでしょう。

(2). カメラの手入れ

野外で使うとほこりが付きやすく、又雨の日や海浜で使うと、気付かないでも水や塩分を受けがちなので、ほつておくとシミやサビを生じます。このような際は柔らかいはけでほこりを払い、布にエーテル又はアルコールをほんの少々しませてふき、更にかわいた柔らかい布でていねいにふきます。カメラを海に落した時は直ちに清水で洗い、あり合わせの油につけ修理にお出し下さい。時間がたつと、腐蝕のため修理不能になります。

(3). レンズの手入れ

レンズにはなるべく手を触れないのが安全で、柔らかいはけか羽で軽くほこりを払う程度に止どめることが望ましいのですが、止むを得ないときは、洗いざらした柔らかい清潔な綿布を棒に細く巻き、先に僅か湿る程度のエーテル又はアルコールを付け、レンズ面の中心から外側に、うず巻をかくようにして軽く静かにふきます。ふく後からかわいて行く程度がよろしいでしょう。強くふいたり、ほこりの付いているままでふくとレンズにきずを付けるもとになります。

⑨ 簡 易 露 出 表

本表はライトバリュース式の露出表で大体の標準露出を示し使用法は次の通りです。

このライトバリュース数は次の様な条件のものであります。

フィルム……………ASA 100

四 季……………春 秋

天 候……………晴 天

昼 間……………午前 10 時
～午後 2 時

条件が違う場合は補正する必要があります。



被 写 体	ライトバリュース数
Sea shore	14
Landscape	13
Street scene	12
In shadow	11
In light interior	10

各種条件に依る露出補正量

条 件	補正量	注 意
フィルム	ASA 200 + 1 ASA 50 - 1	標準のライトバリュース数から条件が異つた分丈(+)は加え(-)は引きます。
四 季	Summer (夏期) + 1 Winter (冬期) - 1	
天 候	Slightly Cloudy (薄曇) - 1 Cloudy (曇) - 2	
朝 夕	Morning (朝) - 1 Evening (夕) - 1	

この他フィルターを着けた場合は指定の倍率に応じてライトバリュースを補正して下さい。

—MEMO—

あなたのプリモフレックスオートマツトLの

ボデー No. レンズ No. 上 下

カメラが盗竊にあつた時は、警察に届出るほかに、御買上げ頂きましたカメラ店に御相談下さい。店では僅かの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見に御協力申上げることが出来ます。カメラの番号はいつでもわかるように御記入おき下さい。



總発売元 株式会社 大沢商会

東京光学機械株式会社

東京都板橋区志村本蓮沼町 180
電話 赤羽 (90) 代表 5141 番